

科目名	地理総合	単位数	2単位	実施予定授業数	70時間
-----	------	-----	-----	---------	------

☆学習の到達目標

学習の到達目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、日本や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。【主体的に学習に取り組む態度】</p>
使用教科書・副教材等	<p>教科書 「高等学校新地理総合」「新詳高等地図」帝国書院</p> <p>図説 「新編フォトグラフィア地理図説」とうほう</p> <p>ワークブック 教科書準拠ノート 帝国書院</p>

☆学習計画および評価方法

学期	学習内容	月	学習のねらい(評価規準)		時数
			ア=知識・技能	イ=思考・判断・表現 ウ=主体的に学習に取り組む態度	
第1学期	第1部 地図でとらえる現代社会		第1章の評価規準		28時間
	第1章 地図と地理情報システム		ア日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。		
	1 地球上の位置と時差	4	イ地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを考察し、表現している。		
	2 地図の役割と種類	4	ウ地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
	1 緯度・経度の基本的なしくみ、時差のしくみについて理解している(ア)。時差が生活に与える影響について考察している(イ)。		2 ア球体の地球と平面の地図やさまざまな地図投影法(図法)、主題図や一般図の表現方法や用途について理解している(ア)。統計地図の種類や統計地図の比較と使い分けについて考察している(イ)。地理情報システム(GIS)活用場面を探究しようとしている(ウ)。		
	第2章 結び付きを深める現代社会		第2章の評価規準		
	1 現代世界の国家と領域	4	ア現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。		
	2 グローバル化する世界	4	イ現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。		
			ウ現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
			1 国境の種類、国家の領域、日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴について理解している(ア)。日本の領土をめぐる問題について考察している(イ)。		
			2 国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、世界の貿易や国際分業のあり方について理解している(ア)。経済のグローバル化と世界の経済的な結びつきについて身近な暮らしと関連付けて考察している(イ)。通信技術の発達と一体化する世界、情報通信技術の発達で変化する生活行動や課題について身近な暮らしと関連付けて考察している(イ)。		

<p>第2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>1 世界の地形と人々の生活</p> <p>2 世界の気候と人々の生活</p>		<p>第1章の評価規準</p> <p>ア世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</p> <p>イ世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>5 1 地形をつくる営力、変動帯のプレート境界や安定地域の特色について理解している(ア)。地震・火山と生活への影響について考察している(イ)。河川がつくる地形、海岸地形の成因や特色を理解している(ア)。河川に関わる災害などの課題について考察している(イ)。氷河地形、乾燥地形、カルスト地形の成因や特色を理解している(ア)。</p> <p>6 2 気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴、大気循環・恒常風のしくみと生活への影響、季節風(モンスーン)のしくみ、植生と気候の関わり、ケッペンの気候区分について理解している(ア)。熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の特色について理解している(ア)。各気候が人間生活への影響について考察している(イ)。オセアニアや東南アジアなどの事例をあげ、自然環境と人間生活の関わりについて探究しようとしている(ウ)。</p>		
<p>【知識・技能】</p> <p>①定期テスト(80%)… 考査問題の中の、用語やその例など基本的な知識についての問いの部分の評価対象とする。</p> <p>②ワークノート(20%)… 地理的技能を活用する作業などに取り組む。内容や提出状況を評価の対象にする。</p>				
<p>【思考・判断・表現】</p> <p>①定期テスト(60%)… 考査問題の中の、地理的事象の成因や影響などについて考察する問題や、資料から読解、推理し判断する問いを評価対象とする。</p> <p>②レポート(40%)… 地理的事象の成因や影響などについて、具体的な地域の実例などをあげ、レポートを作成しプレゼンテーションをする。内容や提出状況を評価対象とする。</p>				
<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①自己評価(20%)… 学期末に行う授業に対する取り組みについての自己評価を評価対象とする。</p> <p>②ワークノート・レポート(40%)… 内容や提出状況を評価の対象にする。</p> <p>③プレゼンテーションの相互評価(40%)… 発表活動の内容やその際の相互評価を評価対象とする。</p>				
<p>【1学期の評価方法】「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」をそれぞれ数値化し、各観点をもとに、40%：40%：20%の割合で総括し、10段階評定とする。</p>				
<p>学期</p> <p>第2学期</p>	<p>学習内容</p> <p>3 世界の言語・宗教と人々の生活</p> <p>4 歴史的背景と人々の生活</p> <p>5 世界の産業と人々の生活</p> <p>第2章 地球的課題と国際協力</p>	<p>月</p> <p>7</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p>	<p>学 習 の ね ら い (評 価 規 準)</p> <p>ア=知識・技能 イ=思考・判断・表現 ウ=主体的に学習に取り組む態度</p> <p>3 言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解している(ア)。西アジアやインドなどの事例をあげ、宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて考察している(イ)。</p> <p>4 ラテンアメリカやサハラ以南アフリカなどの事例をあげ、植民地支配の歴史の今日への影響について考察している(イ)。ロシアなどの事例をあげ、国家体制の変化と人々の生活への関りについて考察している(イ)。</p> <p>5 農業の発展と生産性、農業の近代化とその課題、工業の発達と生活の変化、工業地域の地域差について理解している(ア)。企業活動のグローバル化と人々の生活への影響、脱工業化社会と人々の生活について考察している(イ)。アメリカ合衆国・東アジア・ヨーロッパなどの事例をあげ、経済成長、経済構造の変化や地域統合が人々の生活へ与える影響について考察している(イ)。</p> <p>第2章の評価規準</p> <p>ア世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。</p> <p>イさまざまな地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	<p>時数</p> <p>30時間</p>

	1 複雑に絡み合う地球的課題 2 地球環境問題 3 資源・エネルギー問題 4 人口問題 5 食料問題 6 都市・居住問題	10 10 11 11 11 11	1 地球的課題の種類やその解決に向けての取り組みについて理解している(ア)。 2 熱帯林破壊が進行する地域とその理由, 地球温暖化の原因と影響, 地球温暖化の対策と課題について理解している(ア)。インドネシアやモルディブなどの取り組みについて考察している(イ)。 3 エネルギーの種類と資源利用の変化, 国によって異なる電力構成, 鉱産資源の利用について理解している(ア)。エネルギー問題の解決に向けての取り組みについて理解している(ア)。ブラジルやデンマークなどの取り組みについて考察している(イ)。 4 世界の人口分布と人口増加の傾向, 人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴について理解している(ア)。発展途上国の人口問題, 先進国の人口問題, 人口移動と移民について理解している(ア)。インドやフランスなどの取り組みについて考察している(イ)。 5 発展途上国の飢餓の問題, 先進国に偏る食料の問題について理解している(ア)。ウガンダやアメリカ合衆国解決の取り組みについて考察している(イ)。 6 都市の発達, 大都市の形成と分布, 都市内部の機能と構造について理解している(ア)。発展途上国の都市・居住問題, 先進国の都市・居住問題について理解している(ア)。メキシコやポーランドの取り組みについて考察している(イ)。	
【知識・技能】 1学期と同様				
【思考・判断・表現】 1学期と同様				
【主体的に学習に取り組む態度】 1学期と同様				
【2学期の評価方法】 1学期と同様				
学期	学習内容	月	学 習 の ね ら い (評価規準) ア=知識・技能 イ=思考・判断・表現 ウ=主体的に学習に取り組む態度	時数
第3学期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災		第1章の評価規準 ア我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に, 地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに, 自然災害の規模や頻度, 地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 イ地域性を踏まえた防災について, 自然及び社会的条件との関わり, 地域の共通点や差異, 持続可能な地域づくりなどに着目して, 主題を設定し, 自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し, 表現している。 ウ自然環境と防災について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。	12時間
	1 日本の自然環境	12	1 日本の地体構造, 日本の山地, 日本の河川と沖積平野について理解している(ア)。明瞭な季節変化, 降水量の季節変化と地域差, 日本の都市気候について理解している(ア)。	
	2 地震・津波による災害	12	2 地震の種類と特徴, 地域で異なる震災の被害について理解している(ア)。東日本大震災と防災の取り組み, 阪神・淡路大震災と防災の取り組みについて考察している(イ)。	
	3 火山災害と防災	12	3 火山の分布, 火山の恵み, 火山災害の特徴について理解している(ア)。火山の恵み・災害と共生する島原市や鹿児島市の取り組みについて考察している(イ)。	
	4 気象災害と防災	1	4 地域で異なる気象災害, 都市化による水害の変化について理解している(ア)。台風による水害の課題と取り組み, 大雪による積雪の影響と取り組みなどの事例をあげて考察している(イ)。	
	5 自然災害への備え	1	5 災害の被害を軽減するための取り組み, 防災情報の活用, 巨大地震への備えについて理解している(ア)。被災地の自助・共助・公助, 復旧・復興の取り組みについて考察している(イ)。	
	第2章 生活圏の調査と展望		第2章の評価規準 ア生活圏の調査を基に, 地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。 イ生活圏の地理的な課題について, 生活圏内や生活圏外との結び付き, 地域の成り立ちや変容, 持続可能な地域づくりなどに着目して, 主題を設定し, 課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察, 構想し, 表現している。 ウ生活圏の調査と地域の展望について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。	

1 地理的な課題と地域調査 2・3 現地調査の準備と実施 4 調査の分析と発表	2 2 2	事前調査の方法，仮説の設定と調査計画の作成，現地調査の方法，調査結果の分析と仮説の検証，調査結果のまとめ・発表の方法について理解している(ア)。生活圏のさまざまな課題から，主題を見出し，仮説の設定と調査計画を立案する(ウ)。探究学習につなげていこうとしている(ウ)。	
【知識・技能】 1学期と同様			
【思考・判断・表現】 1学期と同様			
【主体的に学習に取り組む態度】 1学期と同様			
【3学期の評価方法】 1学期と同様			
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」について点数化したものを合計した上で，をそれぞれ数値化し，各観点を，40%：40%：20%の割合で総括し，年間の5段階評定とする。			